

目 次

第 1 章 災害発生後中長期にわたる情報疎外 －東日本大震災後のソーシャルサポートと相互支援の視点から－ 1	
池田 謙一（同志社大学社会学部 教授）	
第 2 章 災害発生時の情報共有の課題 －自治体の多様性と標準化－ 13	
伊勢 正（(研)防災科学技術研究所 主幹研究員）	
第 3 章 災害時分裂流言への対策 23	
郭 基煥（東北学院大学経済学部 教授）	
第 4 章 災害時における自治体議会の情報伝達 －茨城県南地域の基礎自治体議会の知見から－ 33	
坂野 喜隆（流通経済大学法学部自治行政学科 准教授）	
第 5 章 災害発生時の「やさしい日本語」と訪日外国人への避難誘導 －訪日外国人 4000 万人時代に向けた「やさしい日本語」の応急適応と安全を考える－ . 49	
佐藤 和之（弘前大学人文社会科学部 教授）	
第 6 章 東日本大震災を教訓とした災害情報伝達への取り組み －的確な情報を伝達できれば生命は守れる－ 63	
二上 洋介（石巻市 危機管理監）	
第 7 章 人口知能（AI）を用いた「電脳防災」の可能性 71	
山口 真吾（慶應義塾大学環境情報学部 准教授（有期））	
第 8 章 差し伸べた手をしっかりつかんでいただくために －災害時の情報伝達における現状と課題について－ 81	
吉野 朗生（横須賀市市長室危機管理課）	